



新旧役員 座談会 これからの中窓会 のあり方

当初、2月15日（土）に予定していたが、関東地方の大雪のため、延期して開催した。

日時は、2014年3月22日（土）11：00～14：00

場所は、シーボニア メンズクラブで、昼食をしながら、「これからの中窓会のあり方」をテーマに、気楽に語り合いました。

出席者は、期日の変更もあり、当日ご都合の良い方で、宗野前支部長、西島前副支部長、吉澤支部長、原副支部長、鈴木一晴会計監査、高山康明会計監査に広報部会 平井、小林吉照、相川 計9名

○「先輩」と話してい
輩たちは幸せな生
い。気持つ。同窓会運営も



宗野治義（S32年卒）前支部長

メンバーも女性がほとんど。ただ、東京に出てくる50名ぐらいの卒業生はほとんどが男性、女性は2割ぐらい。だから、そういう方々をお誘いするためには女性中心にやるこというわけにはいかない。」

「現状は女性が多いが、その前に昭和50年代以降の世代の出席率が低いのも問題だ。」

○「現状は女性が多いが、その前に昭和50年代以降の世代の出席率が低いのも問題だ。」
い。
「女性の活用、女子会というのもあるが、懇親会にスイーツを出す必要も……」

常任監事の 世代交代を・・・

「常任監事の入れ替えが必要です。40年代の方々が中心なって欲しいですね。」
「常任幹事は自分がでてるだけではなく、同期の方にも総会に出てくるよう働きかけてほしい。」「運営幹事の時は大勢参加してくれるが、その後の総会には出てこない。」

同窓会の活性化は、いかに総会に出てくれるか

○「常任幹事の層を厚くして
その層（35年～50年）が広
がつていけば。」

とだが、食べるのも食べ
べずに苦労したのに、何
でここまでやらなければ
ば・・・当番幹事の負担
が大きすぎるのでは。」
「今は、10年刻みで運営幹
事の順番が回ってくるが、
前後3年の先輩・同期・後
輩で担当するようにしたら
どうか?」
「お土産売りは負担だ。苦
労の割に儲けはない。やめ

E 「常任幹事（企画部）が、

**当番幹事の
負担が大きすぎる**



高山康明（S42年卒） 会計監査